

◎シリーズ 長岡京歴史散歩

134

長八小学校校区の遺跡

～南栗ヶ塚旧石器遺跡～

今回は、長岡第八小学校校区にある遺跡のなかで、最も古い遺跡の一つを紹介します。

1980(昭和55)年、長岡第八小学校の南に隣接した宅地内から、弥生・古墳・長岡京・平安・鎌倉の各時代の遺構やナイフ形石器が見つかりました。幅広い時代の複合遺跡として、調査地の旧小字名から南栗ヶ塚遺跡と名付けられました。

その後の調査で、石器の出土範囲がかなり広いことがわかってきました。

1994(平成6)年に行った調査では、長岡第三中学校の柔剣道場の下から5点の石器類が出土しました(写真21～25)。出土した土層は砂地でした。1997(平成9)年に行った調査では、調子三丁目にある工場内で21点の石器類が出土しました(1～20)。出土した土層は黄色い土層で、他の時代の遺物は全く含まれていませんでした。

この黄色い土層は、約2万年前に形成された段丘礫を覆うように堆積していました。この土層とその上下の土を分析し、約6000年前の火山灰(始良)が含まれる層と、約2万1000年～2万2000年前の火山灰(アカホヤ)が含まれる層の間から、石器群が出土したことがわかりました。

これらの石器群には、互いに接合できるものもありました(13)。まさにここで、約2万年前の旧石器人たちが石を割り、石器を作っていたのです。

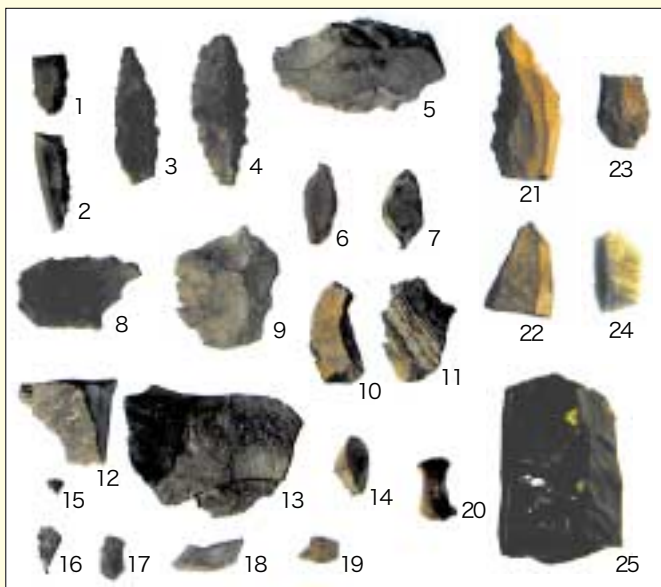
今まで見つかっている石器の素材は、奈良県二上山周辺から運ばれてきたサヌカイトと呼ばれる石がほとんどですが、地元にもあるチャート

(20・24・25)も用いられていました。石材を手に入れるため、集団の代表者がみんなの期待を背負い、辛く不安な長旅に出たのでしょうか。

出土した代表的な石器は、国府型ナイフ形石器で、瀬戸内技法と呼ばれる決まった割り方で作られています。この技法は、近畿・瀬戸内地域を中心に広がっていて、集団間の交流がわかります。

南栗ヶ塚遺跡は、このような旧石器人達が、獲物を追って移動しながら石器を修理・補給し、休息したところだったのでしよう。

(財)長岡京市埋蔵文化財センター



▲ 1～20 調子三丁目出土石器 21～25 勝竜寺出土石器